

1 : はじめに

「**人生は言葉が創る**」というのが、私の哲学です。

その理由について、

これまでブログや Twitter などの各媒体を通して発信してきました。

発信こそしたものの、

その理由をきちんと認識している人は少ないでしょう。

こういったメディアの弱いところは、

出したら出しっぱなしというところ です。

一度発信したら最後、記録としては残るものの、

次々にやって来る投稿によって段々と埋もれていってしまうのです。

発信者としては哀しいジレンマです。

「渾身のメッセージはずっと同じところに留めておきたい！」

というのが本音なわけですが、

更新を続けなければ閲覧者が減ってしまいます。

はたして、どちらが正しいのか・・・

私の現時点での結論としては、

更新を続けるということに正義を置きます。

なぜなら、発信者として、

何があっても止まることは許されないからです。

たとえブログのアカウントが削除されようが、

ホームページが消失しようが、です。

鳥が飛び続けなければ死んでしまうように、

魚が泳ぎ続けなければ死んでしまうように、

発信者というものはやはり、

言葉を伝え続けなければ死んでしまうのです。

それがレゾンデートル（存在意義）というものです。

では、残したいメッセージの問題はどうするのか？

発信方法を変えればいいのです。

ブログや Twitter だけが手段ではありません。

21世紀は本当に良い時代になりました。

できることの制限がなくなったのです。

残したい情報や言葉は、書籍として残せばいいのです。

しかも、変な話ですが、書籍は長文が前提です。

ブログの1記事で1万字も書こうものなら読者に嫌われますが、

書籍ならそれが可能です。

本当に伝えたいことを、体系立てて、順を追って説明できます。

だからこそ、私は書籍という媒体を通して、

人生は言葉が創るというメッセージの本当のところを、

あなたにしっかりとお伝えします。

この書籍に目を通していただければ、

「人生は言葉が創る」の意味だけでなく、

今後の人生において確実に役立つ考え方を会得することができます。

ブログや Twitter はアカウントを削除してしまえばそれまでですが、

書籍は違います。

あなたが手にした瞬間に、あなたのものです。

あなたの意思で消去しない限り、あなたと共にあります。

本という存在は、人類が発明したものの中で最高傑作です。

紙や電子と形は往々にして変わりますが、

コンテンツの型は同じです。

万人に平等に知恵の伝達ができます。

さあ、「人生は言葉創る」、その意味を探しに行きましょう。

※注意！！※

本文の中で述べていることは、

あなたが今まで生きてきた中で得た知見とは 真逆である可能性があります。

でも、安心してください。

私がこれから話していくことは、

世の成功者と呼ばれる人たちが実践済みのメソッドばかりです。

ま、ヘンなものではありませんということです。

というわけで、

あなたがこれまで常識と信じてきた教義を

根本から破壊してしまうかもしれませんが、

それはそれでエキサイティングでしょうから、ともに楽しみましょう。

2 : 思考は何ですか？



【1 : 人の力】

「**人**は、普段考えている通りに人生を創る」といわれています。

この話は本当でしょうか？

本当です。

どれくらいの人が気付いているのかは未知数ですが、

人は、自分が思う通りの人生を生き、そして死にます。

にわかには信じられないでしょう。

例えば、苦しい生活を送っている人は、

当人がその生活を望んだのでしょうか？

そんなはずはありませんよね。

でも、一切生活レベルを変えられていないのなら、

それは本人が望んだことと同じなのです。

人間には今ある環境を大幅に変える力があります。

これは、地球上の生物の中で言葉を司った人間だけが為せる業です。

そんなことはない？

そう考える人は勉強不足ですし、ヒト科をなめ過ぎです。

もう一度いいます。

人には、現状を変える力があります。

なぜなら、人は言葉を話せるからです。

言葉の獲得で、脳は大幅に進化しました。

そんな中でも、人は脳の3%ほどしか使えていないといえます。

(たった3%ですよ！)

でもその3%の力でさえも、

きちんと使いこなせば人生を思うままに描くことができます。

これが人間です。

まずは、人間の能力を再認識しましょう。

これできるかできないかで、

明日からの人生が大きく変わってきます。

人生のメソッド（方法）は、いたってシンプルなのです。

それを小難しく考えていると、窮屈な人生を送ることになります。

【2：あなたは、何を使って思考をしますか？】

タイトルそのままです。

あなたは普段、自分は**何を使って**思考していると思いますか。

言葉です。

映像などのイメージを用いる場合もあるでしょうが、

人間は90%言葉で考えています。

さて、この章の冒頭の文を思い出してください。

「人間は、普段考えているような人生を歩むといわれています。」

でしたね。

そして、思考は言葉でなされるという事実。

もう何となく理解できたと思いますが、

上記の観点から、「人生は言葉が創る」ということがいえるのです。

普段何気なく扱う言葉で人生が自動生成されていくとしたら、

これほど恐ろしいことはありません。

そろそろ言葉に気を遣うことの重要性が見えてきたでしょうか？

【3：あなたの一番の聞き手は、あなた自身】

ああなたの話を一番に聞いているのは、あなた自身です。

普段発する言葉はもちろんのこと、

自分にすら聞こえないようなつぶやきまで、

あなたから発信されたものは全て、あなたが吸収しているのです。

はい、少し整理しましょう。

「ということは、普段自分が使う言葉を良いものに変えていけば、

良い人生を創れるということか・・・」

とあなたが思ったなら、ひとまず安心です。

私の主張を理解できています。

しかし、まだ不完全です。

思い出してください。

思考は言葉です。

たとえ、音声として発する言葉に気を付けていたとしても、

脳内で生成される言葉がマイナスのオンパレードなら、

±ゼロどころか**大幅にマイナス**です。

人間は1日に数万回思考します。

つまり、思考する言葉がマイナス的なものであれば、

1日数万回、自分をマイナスの中に漬けているも同じなのです。

口でいくら前向きな発言を繰り返していても、

脳内で「どうせ自分は・・・」なんて言おうものなら、

全く意味がないということです。

だからこそあなたには、

実際に発する言葉と脳内で生み出す言葉に、**統一性を持たせてほしいのです。**

これは意識すれば今から出来ますので、ぜひチャレンジしてください。

この話をしたのは、私自身が上記のような経験をしたからです。

日頃本を読み、自分を高めるようにしていても、

どこかで、後ろ向きになってしまっていた節があったのです。

これは本当に無意識のことでしたので、気が付くまでに時間がかかりました。

だからこそ、賢明なあなたにはそんな遠回りをしてほしくないので、

今お伝えした次第です。

【3. 親の言語環境から抜け出す】



【1 : 私たちが言葉を獲得する時】

突然ですが、私たちはいつ、言葉を獲得したのでしょうか？

当然ながら、生まれてから数十か月を経てからです。

ただしここで問題となるのは時間の長短ではなく、

誰からという点です。

当然ながら、これは自分の親からです。

彼らの話す言葉を耳にするうちに、自然と話すようになります。

その後も、親の話す言葉や、その他の手段を通して、

私たちは少しずつ言葉というものを獲得してきました。

そして、それぞれの人生を経て、今に至ります。

ここで、あなたに確認しておきたいことがあります。

あなたは、親の言語環境を超えましたか？

【2：親の言語環境を超える】

親の言語環境・・・なんだか聞きなれない表現ですね。

いったい何を意味するのでしょうか。

端的にいつてしまえば、**親のボキャブラリー（語彙力）を指します。**

語彙力とはつまり、どれだけ言葉を知っているかということです。

しかし私がいう言葉とは、

難しい漢字を知っているとか、ことわざや四字熟語を知っているとか、

そういった狭い範囲に止まるものではなく、

もっと広い範囲のものです。

どれだけ本を読んで、

先人たちや同時代の人間たちから学んできたのか、

そういう意味合いで述べています。

「本を読むか読まないかで、そんなに差がつくのか？」

と思うかもしれませんが、

もしあなたそう思ったのであれば、今すぐ考えを改めてください。

読書習慣の有無で人生に差がつくどころか、**人生の勝者と敗者が決定します。**

これは大袈裟な話ではありません。

決しておススメしませんが、

今から試しに10年間、読書をせずに過ごしてください。

(絶対に後悔しますから・・・)

さて、話がだいぶ逸れてしまいましたので、戻しますね。

私たちは生まれてから親元を離れるまで、

彼らの影響を受けながら日々を送ります。

彼らが習慣的に発する言葉、**行動**に影響されるのです。

そう、行動様式も影響されるのです。

例えば、親の休日の過ごし方を例にとってみてみます。

親が休日を家のリビングでゴロゴロしながら過ごした場合、

それを見て育った子は、当然にそれを真似します。

結果、最悪の場合は部屋に引き籠るようになります。

子供は真似事が好きなのです。

これは自然現象なので、何らおかしいことではありません。

ただ面白いのは、例に挙げた“だらしない”親ほど、

子供には「勉強しなさい」と強要します。

ま、無駄な抵抗ですけどね。

さて、他人を笑っている場合ではありません。

翻って自分はどうかと考えてみましょう。

とはいっても、

何が「正解の親」なのかは分からないと思いますので、

簡単なチェックリストをご用意しますね。

本当に簡単です。

以下の10個の質問につき、

あなた自身の考えをイエスかノーで思い浮かべてください。

1. お金は素晴らしいと考えている。
2. お金持ちはすごいと考えている。
3. 世の中には格差があり、それは決して無くならないことを理解している。
4. 成功者を見ると、自分も早くそうなろうと奮起できる。
5. 成功に興味がある。
6. お金に興味がある。

7.成功に必要なことは運ではなく準備と土俵の選択であることを理解している。

8.読書の習慣がある。

9.言葉の重要性を理解している。

10. 親の言語環境を超えた、ないしは超える準備がある。

以上の質問につき、**6個以上**イエスといえたなら、

とりあえずは自分の両親に感謝しましょう。

仮にそうでなかったとしても、あなたの親御さんを恨んだりしてはいけません。

あなたを育ててくれた事実には変わりはないのですから、

感謝の念は持ちましょう。

それに、仮にあなたが後者であっても心配はご無用です。

この本を読んでいる時点で、（そしてMMAに参加した時点で）

あなたは自分の人生の勝者になる準備を始めているのです。

ですので、恐れずに進みましょう。

さて先の質問ですが、

おそらくはほとんどの人がNOと答えた数の方が

多かったのではないのでしょうか。

それもそのはず、予想通りです。

日本の教育システム上、

上記の質問の反対のことを植え付けようとしませんから。

だからこそ、

貧しい考えの人間が量産され、その人たちが親になり、

子に同様の教育を施していくのです。

筆者たる私の親とて例外ではありません。

一点の曇りもなく前述の后者のグループの人種でした。

(「でした」というのは、私の“**悪影響**”を受けてか、

私の親も好転的な考え方を手に入れつつあるからです。)

では、なぜ私はそうではないのかといえば、

途中で気付けたからです。

これはもはやラッキーだったとしかいいようがありませんが、

ある日を境に読書に目覚め、

親の言語環境から何とか抜け出すことができました。

もし、私が読書に目覚めていなければ

あなたが本書を読むこともなかったです。

さて、

親の言語環境から抜け出すことについて長々と話してきましたが、

いかがでしたでしょうか。

まだの人は一刻も早く脱出の準備を始めましょうね。

3.思考を手に入れる。



【1：人間の脳はコンピュータと一緒に】

と
というよりは、コンピュータそのものが、人間の脳の模倣です。

コンピュータはアップデートできるのに、

人間にできないはずがありません。

ですので、私たちもどんどんアップデートしていきましょう。

では人間はどのようにして

バージョンアップしていけばいいのでしょうか？

手段としては、

自分で新しい考えを生み出していくか、外部から仕入れるかの2通りです。

私としては、まずは外部ルートを提案します。

というのも、

そもそも普通の人生を歩んできた人間が持っている知恵など、

最初からたかが知れているからです。

ただし、特別な才能を持つ天才は除きます。

天才と呼ばれる人たちは、

本当に短時間で周囲が絶句するようなアウトプットをしてきます。

そういう人種は、特別外から情報を持ってくる必要がないのです。

(何とも羨ましい・・・)

さて、では天才でなければどうすればいいのか。

その辺で野垂れ死にするしかないのか・・・

そんなわけがありません。

凡人には凡人なりの作法というものがあります。

それが外部からのインプットです。

そして、それを愚直に積み上げていけば、

天才に近づくことすら可能です。

ただし、これはあくまでおまけみたいなものなので、

目的ではありません。

その辺りはご注意ください。

というわけで、

知恵というものは外部からいくらでも入手可能ということが、

お分かりいただけましたね。

【 2 : 独創すら、模倣から始まる】

「**外**部から知恵を仕入れるって、結局はパクリなんじゃないの？」

もしかしたらあなたはそう思われたかもしれません。

確かに、本を読んで勉強するといったところで、

手にするのはその著者の考えであって、

あなたのための考えが提示されるわけではありません。

ですが、これは何の問題もありません。

大切なことは、新しい考えや、既の実証済み、ないしは

断定性の高い知恵を学ぶことだからです。

それを用いて自分がどうするか、これがポイントなのです。

自分に合う考えならそのまま実践すればいいですし、

合わなければ不採用で構いません。

何とも都合がいいようですが、

焦点は「自分がどう生きるか」なので、

よくわからない世間体など今すぐ棄てましょう。

考え方やマインドなんて受売りでいいのです。

ところで、余談になりますが、

私自身が読書をしていて気付いたことがあります。

それは、あるテーマについて書かれている本の内容は、

10年前のものであろうと、最近発表されたものであろうと、

大して変わらないということです。

これは何を意味するのでしょうか？

最近の著者には盗作魔しかいないということでしょうか？

違います。

ここからいえることは、

人生を思い通りに運ばせる方法や、人間関係で重要なこと、

そしてビジネスの原理原則などといったものは、

今も昔も変わらないということです。

後は、

時代ごとの著者たちが、自分のフィルターを通して再構築し、

世に送り出しているだけの話なのです。

彼らもまた先人たちから学んでいたというわけですね。

そして、今の世代が学び次代へ繋いでいくという、

知恵のリレーが実行されるのです。

ですので、これを読んでいるあなたも、

ぜひ次は発信者として動いてみてください。

知恵を手にした者の使命は、

実践することと、伝えることなのですから。

いってしまえば、人生はカンニングし放題なのです。

(学校の試験や各種資格試験は除きます。念のため。)

4. 言葉を磨く。



【1：格差は富が生むのではなく、言葉が生む】

さて、今一度本書のテーマをおさらいしましょう。

「人生は言葉が創る」 でしたね。

もう何となく、これが大袈裟な話ではなく、

自然法則のように

当たり前のものだということが分かってきていると思います。

また、これに関連して、

扱う言葉次第で、貧富さえも決定されてしまいます。

これは、「人生は言葉が創る」という法則からすれば当然に導かれることです。

そういえば、

ネットの掲示板で次のような書き込みがありました。

「階層によって言葉遣いや話し方、仕草、それに話す内容も異なる」

この書き込みをした人は、仕事上それこそ上から下まで、

様々な人種とかかわることが多く、

その結果、上記のようなことを感じたのだそうです。

私が注目したのは、

太字で示した「話す内容も異なる」異なるという部分です。

これが重要です。

上の階層で使われる言葉と、下の階層で使われる言葉は

同じ国の言語であったとしても全く属性が異なるのです。

上の世界の中心テーマは満足・希望・熱意・興奮・情熱・喜び・感謝、

などであるのに対し、

下の世界の中心テーマは

退屈・苛立ち・落胆・心配・批判・怒り・敵意・羨望・絶望・恐怖などです。

特徴的なのが、

下の世界では、ただでさえ人生に悪影響を及ぼす言葉を使うのみならず、

そういった言葉の種類も豊富というところですよ（これについては後ほど）。

このように、扱う言葉がいかに重要であるかが分かりますね。

さて、こういうことを話すと、

たいていは次のような言葉が返ってきます。

「そもそも、そういう人（お金持ち）たちは、余裕があるわけだから、

言葉だって前向きなものになるだろう。」

「方や生活が苦しい人たちは、そんな余裕はないわけだから、

ハイテンションな言葉なんて使っていないよ！」

なるほど、

ともすると「そうかもな」と思ってしまいそうですが、

このような考えが浮かぶ人は、

残念ながらまたしても勉強不足が露呈しています。

今お金持ちになって自由な暮らしをしている人たちは

お金持ちになったから言葉に余裕ができたのではなく、

名もなく貧しい時代から言葉の重要性に気づき、

意識的に扱う言葉を変え、

結果として富に満ち足りた人生を手に入れたのです。

この話は、

ともするとスピリチュアルな雰囲気を出しますが、

何ら不思議な話ではありません。

やはり自然法則です。試しに、次項でちょっとしたエクササイズを紹介します。

【2：シンプルな体質改善方法】

もし、今のあなたに読書習慣がない場合

(本書を手に行っている時点でそれはないと思いますが)、

ぜひ今日から、1年がかりでいいので、本を100冊読んでください。

ジャンルとしては特に指定しませんが、

あなたを手っ取り早くかつ最短コースで進化させることに重きを置くなら、

やはり本書のような自己啓発系（能力開発系はマストで）か、

ビジネス書が一番の早道です。

自己啓発というと、未だに日本では変な顔をされるか、

「なになに、自分探し？（笑）」といった反応が返ってきますが、

そういう未開人は放置でいいので、

あなたは脇目も振らずに自己研鑽に邁進しましょう。

ここで簡単に、あなたが辿ることになる経過を予習しましょう。

まず、30～50冊を超えると、

徐々に周りと自分のズレを感じ始めます。

そして、ついに100冊目を迎える頃には

あなたが感じていたズレは**明確な違和感に変わり**、

これまであなたの周りにいた人たちとは完全に話が噛み合わなくなります。

結果、あなたが周りのレベルに自分を落としていく羽目になります。

この状態まで来たら、後はもうあなた次第です。

その場所に止まるか、そこから飛び出すか、ということです。

私の予測ですが、

もしあなたが、本当にこのエクササイズを達成できたなら、

後の人生はあなたの思うままです。

なぜなら、あなたはその後も、

200、300、

そして1000冊と本を読んでいくことになるからです。

こうなると、あなたは日々成長するための習慣を手にしたことになります。

自分を進化させていく術を手に入れたことになるのです。

そして気が付いたころには、莫大な富を手にしていきます。

その時、私が述べていたことが嘘ではなかったと思えるでしょう。

今すぐ目の前に1億円を用意することはできませんが、

意識次第では24時間以内に

1億円稼ぐための考え方を身に付けることはできるのです。

さあ、今日から革新の準備を始めましょう。

【3：私たちは、生まれながらにダークサイド！？】

本章第1項の冒頭で、

上下の階層で使われる言葉に差異があることを話しましたね。

この時、下の世界ではマイナスな言葉が多かったことに気づきましたか？

実はこれ、極めて重要な問題です（といっても説明はすぐに終わりますが）。

私たちの話す言葉を大きくプラスの言葉、マイナスの言葉で分けると、

なんとマイナスの言葉が半分以上を占めています。

言語習得の過程でもこれは例外ではなく、

知らず知らずのうちにマイナスワードの蓄積が増えてしまうのです。

ということは、本当に意識的に使う言葉に気をかけないと、

あっという間に奈落へ急降下してしまうのです。

これは脅かしではなく、**真剣な警告**です。

よくよく心に留めおいてくださいね。

私たちは常に、墜落の危険に晒されているのです。

しかし、気を付けていれば、そんな危険とは無縁でいられるのです。

5. 言葉を使役する。



【1：発信されない言葉は無いのと同じ】

これまでのところで、人生で扱うべき言葉の属性は理解できましたね。

これでも十分な気づきを得られたことと思いますが、

まだ終わりではありません。

言葉とはコミュニケーションの手段です。

使って初めて言葉としての機能を発揮します。

それは友達との会話かもしれません。

顧客との商談かもしれません。

こうして発信される文章かもしれません。

いずれにせよ、フォーマットは無限定なのです。

使って初めて、あなたの言葉というものが出てきます。

そう、言葉とは話者によっていくらでも姿形を変えるのです。

同じ言葉は存在しないとっていいのです。

「そんなわけがない！」

あなたはそう思われたかもしれません。

では、以下のような例で確認してみましようか。

【場面：女性に対して・・・】

ハンサムな人 「あれ？もしかして香水変えた？」

不細工な人 「あれ？もしかして香水変えた？」

少々例がひどいですが、

極端でないと伝わらないこともあるので、ご理解ください。

さて、

上の文では、2人に人物話す言葉は一言一句同じものです。

しかし、

後者の人物が女性に与える印象はよろしくないでしょう。

哀しいですが、言葉は人によって変わるのです。

ときどき見かける、

「何を言うかではなく、誰が言うか」というのは真実なのです。

だからこそ、自分が発したい言葉に見合う人間像に、

自分を押し上げていけばいいのです。

そして、あなた自身の言葉を発信していきましょう。

【2：今日からマイナスワードにサヨナラをしよう】

さて、ここからは実践的な話をします。

よろしいでしょうか？

では参ります。

今日から、

あなたの中から一切のマイナスワードを追放してください。

あなたの頭の中の辞書から、削除するのです。

そこまでする必要があるのです。

前述した通り、

人間の言葉は半分以上がマイナスワードで構成されています。

私は前々項あたりで、

“気を付ければいい”という趣旨の話をしました。

本当は追放してしまった方が確実です。

こういうことは中途半端が一番ダメなのです。

極端にしなければなりません。

あなたの発する言葉、思考で使う言葉を、

全て好転的な言葉に変えていきましょう。

もう一度言います。

全て変えてください。

でも、だって、だけど、疲れた、どうせ、所詮、などなど、

真剣に向き合っても何らのメリットもないような言葉とは、

交際する必要がないのです。

【3：今日からマイナス人間とサヨナラしよう】

さて、あなたが言葉を良いものに変えても、

あなたの周囲にいる人間が否定的な言葉を扱う人ばかりだったとしたら、

残念ながらあなたの努力は水泡に帰します。

「自分がしっかりしていればそんなことはない！」

あなたはこう思ったかもしれません。

もちろんその考えは必須です。

いちいち他人に影響されているようではお先が危ういです。

しかしながら、少し別の見方をする必要があります。

人間は、**無意識のうちに他人の影響を受ける性質があります。**

知らない間に毒されてしまうのです。

あなたがうだつが上がらない人間と一緒にいれば、

あなたの人生もパッとしないまま終わりを迎えます。

逆に、あなたが意識的に成功者という人種と交際すれば、

あなたの成功も時間の問題です。

いつか話した階層の話をお出ししてください。

その前の言葉と思考の話を思い出してください。

全てがリンクしています。

私たちは、思考と共に脳波を飛ばしているのです。

それが良いものであれば、周囲に良い影響を及ぼします。

逆もまた然りです。

そして、あなたがいくらプラスの脳波を発信しても、

周りから発信される脳波がマイナスのものであれば、

結果としてあなたもマイナスに毒されます。

簡単な話です。

正の数よりも負の数が大きければ、その足した結果はどうなりますか？

あなたが今日からすべきことは、マイナス人間との関係を断つことです。

現実的にそれが厳しいのであれば、少なくとも距離をとるようにしましょう。

そして、距離をとりながら、その環境からの脱出を図るのです。

前に話したことを思い出してください。

あなたの言葉のレベルを上げていけば、

あなたはこれまでの環境に違和感を抱くという、あれです。

この言葉が示しているのは、

あなたの周波数と周りの周波数が合わなくなるということです。

ここでしっかりと、外に踏み出していく勇気を持てるのが、

あなたの人生を決定づけます。

【4：今日から、マイナス行動とサヨナラしよう】

これまでには主に言葉について述べてきましたが、

この項では例外として行動そのものにフォーカスしていきます。

(i) 鬱は行動！？

普段の姿勢や生活習慣から、鬱になってしまうということです。

(無論、言葉に出して「最近鬱だから」などというのは論外です。)

特に、姿勢は気をつけなければなりません。

疲れがたまって前かがみがちになってはいませんか？

崩れた姿勢で長時間過ごすことはやめましょう。

一番疲れにくい姿勢は、背筋を伸ばすことです。

意外でしたか？

確かに、少し腰を折った姿勢のほうが楽な気もするのですが、

長期的に見ると体へのダメージは大きくなってしまいます。

ということで、

今日からは背筋をぴんと張った姿勢を心がけましょう。

(ii) 胸を張ると自信が出てくる。

さて、人間の行動は感情とリンクしていることは、

何となく分かったと思います。

今度はそれを応用しましょう。

ぜひ意識的に、胸を張るようにしてみてください。

とはいっても、

その辺のヤンキーのような肩で風を切って歩くようなスタイルではなく、

自然な状態で、という意味です。

実はこれ、前項の背筋をぴんとすることを心がければ、

自然に胸を張ることができます。

胸を張ることで、自信に満ちた自分をイメージしましょう。

最初は嘘でも構いません。

これはある意味、自分を（いい意味で）^{だま}騙すものです。

しかし、これで良いのです。

プラスの行動によって、プラスの感情を創出し、

結果自分を良き流れに置くことになりますから。

逆は最悪ですけどね。

iii) 背中で語れ。

正面の見た目に気を遣う人は多いですが、

後ろの見た目を気に掛ける人はあまりいません。

しかし哀しいかな。

人はあなたの背中も見ています。

あなたの背中は、何を物語っているのでしょうか？

自身の現れですか？

プロフェッショナルですか？

経営者ですか？

奴隷ですか？

どれほど正面に気を遣ったところで、

肝心要の背中がお粗末ではリアルな評価はあなたの背中によります。

ぜひ、あなたの中の“かくあるべき背中”で行動しましょう。

まあ、これの基本も、結局は背筋を伸ばすことにあります。

iv) 溜息禁止。

「溜息をすると幸せが逃げていく」という迷信があります。

私はこれを、迷信だとは思っていません。

あなたは溜息ときいて、直感でプラスかマイナス、

どちらのニュアンスを思い浮かべますか？

マイナスですよ。

「はあ～」と溜息を吐いた瞬間、

あなたの脳内にはマイナスの感情が行き渡ります。

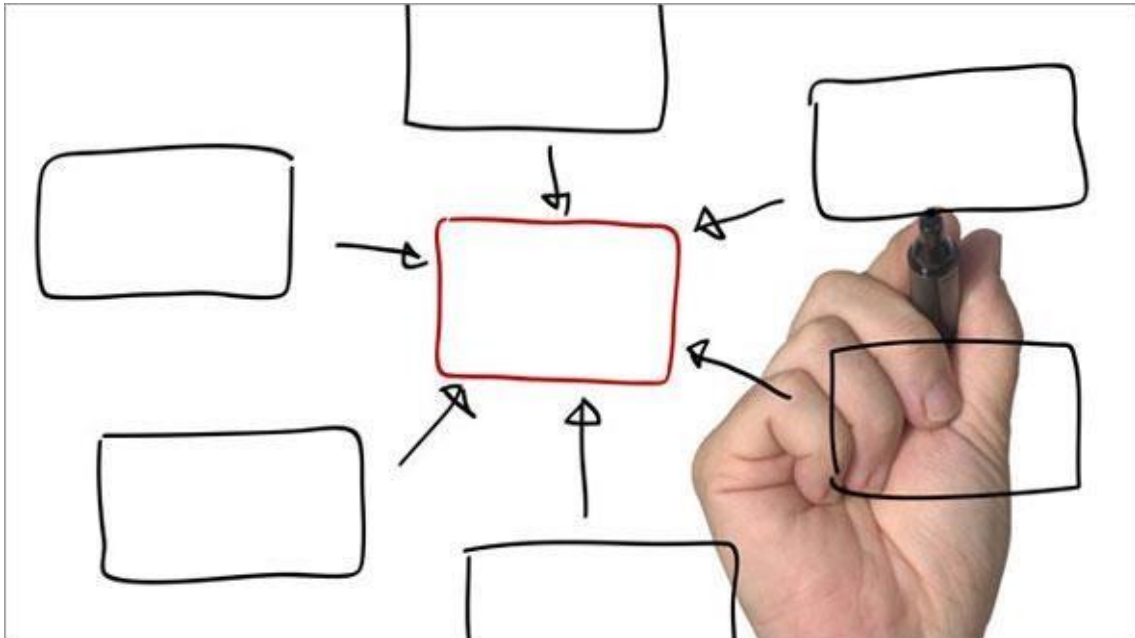
結果、負の遺産をため込んでいってしまうのです。

溜息からは何も生まれません。

どうせするなら深呼吸をしましょう。

そして頭を冷やしましょう。

6. 軸の話



【1：軸はなぜ必要か？】

人生には言葉重要だ、ということはもうよく理解できたかと思います。

今から、話すのは、言葉と双壁を成す軸の話です。

ここでいう軸というのは、あなたの行動指針です。

この行動指針は、選択の仕方や日常的な考え方まで、

あなたの行動すべてを支配する極めて重要なものです。

人生のなるべく早い段階であなたの軸を築いてください。

その軸がプラスのものであり、かつ、あなたのサイズに合うものなら、

あなたの人生はあなたの思い通りです。

サイズといいましたが、これは見落とされがちな点です。

多くの人は、成功者のプラスの面をひたすら真似します。

でもなぜか、それが自分にフィットするかは見ないのです。

服を選ぶときは、鏡の前であてがったり、試着をしたりするのですが、

なぜかそれ以外の場面では、服選びの時のような「検討」が行われません。

結果、大怪我をする人が大勢います。

世の中、成功者はたくさんいます。

しかし、皆が皆、全く同じ方法で功成り名遂げたわけではないのです。

それぞれのやり方で、それぞれの哲学で、

掴みたいものを掴んだのです。

その中心にあったのが、軸なのです。

【2：軸の見つけ方】

i) 何に頼るべきか？

さて、いきなり軸を持ちましょうといわれたところで、

そんなものを意識したことがない人にしてみれば、

いったい何をすればいいのか分からないですよ。

自分の指針は何なのか？

それを割と手っ取り早く手にする方法があります。

さて、それは何でしょうか？

・・・。

正解は読書です。

本には数多くの成功者の物語が存在します。

その中に、あなたに適したものが必ずあります。

「それぞれの方法で」とはいいましたが、

類似点がゼロなわけではありません。

もっといえば、

ほんの数パターンに分かれるだけと私は考えます。

そして、そのパターンを見つけた後に、

あなた自身のエッセンスを加えるのです。

その瞬間、あなたオリジナルの軸が完成します。

ii) ぶれて、ぶれまくれ。

さて、軸の構築には読書が最適だと分かりました。

あとは、ひたすら読書に励むだけです。

ここでひとつ、アドバイスがあります。

最初から軸が定まるとは思わないでください。

おそらくあなたは、

何冊か読んでいくうちに「これは！」というものに出会うでしょう。

その時、「これを軸にしよう」とあなたは思います。

それはそれで構いません。

しかし、その後も読書数が増え、あなたのレベルが上がるうちに、

「これもいいかも・・・」と思うものが必ず出てきます。

そのとき頑かたなに

「でも、自分はもう軸を決めたから・・・」

などとは考えずに、堂々と鞍くら替えをしましょう。

変な話ですが、最初のうちは軸がぶれて当然です。

そこからいろいろな考えに触れていく中で、

「あ、自分にはこれが合っているな」

というものに気付くか、

過去の蓄積から答えが出てきます。

軸は探すものといいましたが、

そういった意味（過去の蓄積から答え＝軸が見つかるという意味）では、

軸とは思い出すものともいえるわけです。

iii) ちなみに私は、500冊超えたあたりから、見えてきました。

「軸っていうけど、そういうお前の軸はどのなの？」

とあなたは思ったかもしれません。

では、少し私の話をしましょう（長かったらごめんなさい）。

実をいうと、読書を始めたばかりの頃の私は、

そもそも軸というものすら、意識していませんでした。

ただ読書というものに目覚めて、

言葉を知ることの重要性に気づいて、

とにかく語彙を増やそうと必死でした。

「これなら、自分にもできるかも！」と思えたからです。

とにかく読書をたくさんした結果、

軸はできましたし、人生に必要な考え方も身に付けました。

これから先どういう時代が来るのかも学びました。

日本という国のすごさも知りました。

できる経営者がなぜ、

経営学ではなく心理学を学ぶのかも理解できました。

そして、あなたにこうして、本を通して出会うこともできました。

もちろん結果はこれだけではありません。

この他にも私にプラスに作用したことはたくさんあります。

損をしたことといえば、

世間の常識が私の非常識になってしまったことくらいです。

iv) まずは、30冊を目指しましょう。

さて、次はあなたの番です。

あなたが、まだ自分の軸を見つけていないなら、

ぜひ、今日から読書を始めましょう。

とはいっても、いきなり何百冊も読もうとしなくていいです。

本屋さんに行って、ピンときたものまずは1冊選んでみましょう。

そこから、あなたの旅が始まります。

v) 実は既に読書家の人へ。

「もう本を読む習慣はあるよ」という人は、ぜひこれからも続けてくださいね。

ただ、読書はしていたけど、

今まで私が述べてきたことは意識したことがなかった場合は、

ぜひ今日から意識し始めてください。

それだけで、もう、あなたは進化できます。

3 : 軸の完成後 . . .

では、軸が完成した後の話をしますね。

個人差こそありますが、

例えば300冊を以て、あなたの軸が完成したとします。

その時あなたにしてほしいことがあります。

要らない本を処分してください。

「せっかく買った本を処分しろ!？」

と、なかば怒り心頭に発しそうな気持ちはわかります。

私もこの教えを本で読んだ時は、

「なんともったいない・・・」と思ったものです。

しかし、**これがまた大切なポイントなのです。**

軸が完成しつつある頃のあなたが読む本は、

読書開始時に比べてかなりレベルが高いものになっています。

もう、あなたに必要な本しか買わなくなってきているでしょう。

「必要な本だけ？視野が狭くなるのでは？」

とあなたは思ったかもしれません。

確かに、その恐れも否定はできませんが、

絞るのはあくまで、膨大な読書を前提としての話です。

ここで捨てることを覚えないと、

結局何が大事だったのかが分からないまま、

ただ本棚が埋まっていくのを見ていくだけになってしまいます。

それでは意味がないのです。

思い切って捨てましょう。

捨てた結果、残った本が10冊でもいいのです。

1冊でもいいのです。

その数冊の本に改めて出会うために、これまでの読書があったのですから。

ところで、処分する方法ですが、

“本をビニールテープでまとめてポイ”だけはやめてくださいね。

せつかくですから、お金に変えましょう。

50冊を売れば、運が良ければ4000円くらいにはなります。

そのお金は、

次に出会うであろう本を買うための資金にしましょう。

そして、また本を買い、時期が来たら要らない本を捨て、

改めてブラッシュアップを図りましょう。

人間は、事実上の脱皮をするのです。

古い皮を破り、革新を身に纏^{まと}った自分を発現させましょう。

これを繰り返せば返すほど、

あなたの人間レベルは他を寄せ付けないものになります。

さて、準備はよろしいですか？

7. 戦いが迫っています。



【1：本書の作成に至るまで】

そろそろ本書もまとめの段階に入ろうとしています。

これまで長々と論じてきましたが、

あなたの中に変化は起きたでしょうか？

ところで、

私はなぜ、今回のような話をしてきたのでしょうか？

こういった類の啓発系の本は、それこそ世の中に腐るほどあります。

無論、本書もその部類に入るのでしょう（ちょっと納得できませんが）。

ただ、多くの人が本屋さんに出向くわけではありません。

優秀な人でも、本は嫌いという人もいます。

また、そもそも本を読む人口が減ってきているのも、

本書を執筆した理由です。

都内の有名書店が潰れるのが、今のリアルです。

仮に、人生で大切なことを本から学べるという事実があったとしても、

そもそも本屋に行かないのであれば、

その人は一生、その事実を知らぬまま、搾取される人生で幕を閉じます。

これは断じて大袈裟な話ではありません。人生で大切なことを本から学べる。

でも人は本屋に行かない。

「ならば、一人でも多くの人にその事実を知らせよう」

私はそう思い、この本を書いたのです。

今は素晴らしい時代です。

伝達手段は無限なのです。

そして、**気付いた人間が即行動できる環境が整っています。**

そこで私は、

私が学んできたことのブラッシュアップを図るとともに

あらゆる書物の共通点を研究し、

また、即効性のあるものに限定して構成していきました。

【2：賢人計画】

i) よく分かるこれからの未来

本屋に行かない人間が増える

↓

学ばない人間が増える

↓

馬鹿が増える

↓

国家の滅亡

あなたは極端な話と思ったかもしれませんが、

全然そんなことはありません。

今の日本は、

自分で考えることをしない思考停止人間が絶賛量産中です。

それに拍車をかけているのがスマホです。

以前はマスコミの情報に躍らされ（あ、今もか）、

そして今は、あたかも真実のようなネットの情報に流される始末です。

どこまでも奴隷根性が抜けられないようです。

それでは、国や巨大組織の思惑通りです。

それで本当に良いのでしょうか？

確かに、何も考えず、何も創らず、

ただ消化するだけの人生も気楽で良いのかもしれない。

しかし、あなたはこの本を手に取りました。

なぜなら、あなたは気付けたからです。

「人生は自ら拓かなければならい」という、

多くの人間が放棄した人類のミッションに。

改めて、私から祝福を送ります。

おめでとうございます。

ii) 「21世紀は個人の時代」だけじゃない

「今世紀が個人の時代だ！」などということは結構いわれてきましたが、

何もこれだけが今世紀のテーマではありません。

では、21世紀は他にどんな時代といえるのでしょうか？

正解は「**完全自己責任時代**」です。

自分の^{わざ}業に責任をとれる人間だけが生き乗ることを許されます。

この人種は、自己の不遇を国や社会や経済のせいにはしません。

あくまで原因自分論者です。

あれ、不思議に思いませんか？

先ほど私が紹介した、現在増えつつある人種は、

これとは真逆ですよ？

そう、時代の潮流（自己責任時代）と

リアル（全部人のせい人間）が逆行しているのです。

では、どちらが“ホンマもん”なのか？

当然、後に紹介した「自己責任時代」時代の方です。

つまりはこういうことです。

気付けた3%と、気付くことを放棄した97%で、

これからの時代は構成されるということです。

ピラミッドは、これにて完成を迎えます。

もう、よほどのことがない限り、覆りません。

しかし、今すぐというわけではない、というのが唯一の救いです

厳しく見積もって、あと8年以内です。

「8年・・・まあまああるじゃん！ 余裕余裕♪」

と、もしあなたがそう思ったなら、イエローカードです。

3年以内でケリをつけましょう。

今の時代は進むのが早いのです。

予測なんかアテになりません。

今すぐ行動して、

賢いグループの席を確保しましょう。

8・旅は始まったばかり。



いかがでしたでしょうか。

この本に記したことは、所詮は私個人の見解に過ぎないのかもしれませんが。

しかし、今ならはっきりいえることがあります。

「少なくとも、自分の人生をコントロールしたいなら、

この本に書いてあることを実行する以外にない」

ということです。

私が書いてきたことは、

世間的な常識とはかけ離れている部分もあります。

しかし、それで問題はありません。

そもそも常識は、人や時代によっていくらでも変化します。

敗者には敗者の、勝者には勝者の常識があるのです。

問題は、

自分がどのコースで生きていきたいか、それだけです。

本当に、それだけです。

シンプルですよ？

普通に考えれば、誰もが勝者コースを選ぶはずなのですが、

なぜか、人口の半数以上はその反対のコースを^{ぼくしん}驀進しています。

そういう洗脳を受けてきたから、ある意味仕方ありません。

あ、そうそう、洗脳といいましたが、私も受けています。

多分、あなたも受けています。

いったいいつ？

青春^{まっただなか}真只中の学生時代です。

主に小中高時代です。

ここで私たちは、勝者にはなれない教育を施されてきました。

みんな一緒、同一、均一。(マクロ経済かよ！)

間違っても抜きん出ることなど許されません。

そんなことをすれば、空気が読めない奴の烙印を押されてしまいます。

・・・。

まあ、どんな場合でも、

勝者よりも敗者のほうが圧倒的に多いわけですから、

無駄に期待させないという意味では、正しい教育の仕方なのかもしれません。

しかし、あくまで選ぶのは本人の意思です。

にもかかわらず、指導者側の勝手な意思で偏ったことしか教えないのは、

教育者としてどうなの？という話です。

人間は馬鹿ではありません（たまにホームラン級の馬鹿もいますが）。

一度しっかりと教えれば、後は勝手に判断します。

その選択の余地すら奪ってはならないのです。

閑話休題。

さて、話が教育論に逸れてしまいました。

私たちが勝者の教育を受けなかった以上、

もはや自分で勝者の知恵を獲得していくしかありません。

ここで、

「なんで国は私たちに勝者になる道を教えてくれなかったのだ！

国は最低だ！責任をとれ！！」

という思考に陥ってしまうのは、典型的敗者です。

たとえどんな環境、境遇にいようとも、

どんな時代に生きようとも、自分の人生の責任は全て自分にあります。

決定権者は決して他人ではありませんし、

そもそも他人に委ねてはなりません。

(自分で拓く、その覚悟がないなら、丸投げもアリかもしれませんが)

自分で決断するのは、何だか当たり前の気もしますが、

実はとっても大変なことなのです。

自分で決断するということは、

当たり前ですが、その行動の結果をすべて自分が被るということです。

「そんなのいわれるまでもない！」

あなたはこう思ったことでしょう。

しかし、いったん立ち止まって考えてみてください。

この今の世界で、果たしてどれほどの人間が、

自分の言^{げん}や業^{わざ}に責任を果たしているでしょうか？

匿名が当たり前になったこの世界で、

法の抜け穴が日々更新されるこの世界で、

誰が好き好んで責任なんぞに飛びつきますか？

偽りの責任なんて要りません。

本当の責任を持ちましょう。

それはつまり、自分で決断するということです。

「～がそう言ったから」なんて間違ってもいってはいけません。

人に相談することは一向に構いません。

しかし、あくまで最終決定賢者はあなたです。

自分の責任を以て決断していくこと、

それがつまり、自分で自分の人生を拓いていくということです。

どうですか？めんどくさいでしょ？

でも安心してください。

ほとんどの人は、その圧に耐えかねて、

他人に決定権を委ね、支配される人生を選んでいきますから。

そしてそれが間違いとか、おかしいとか、そんな私は思いません。

だって、幸せの価値観なんて結局は主観です。

憲法13条でも個人の幸福追求権が保障されています。

だから、あなたはただ選べばいいのです。

たとえそれが、どういうクライマックスを迎えようと、

あなたがしたその決断に誤りはないのですから。

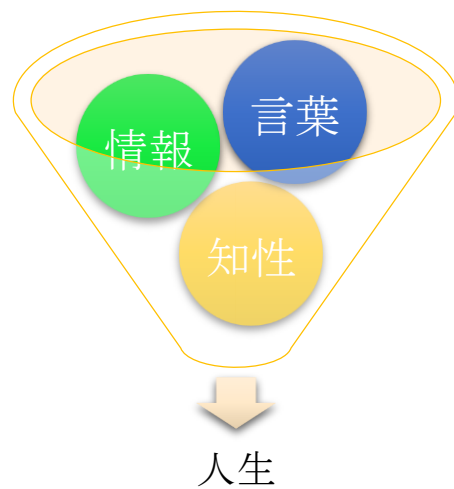
意外ですか？

でも本当です。

人間は何かを決断する時、その時の最善な方を選んでいるのです。

私が話してきたことを実践してみるもよし、参考に止めるもよしです。

それでは。



【著作権について】

この書籍は著作権法で保護されている著作物です。

下記の点にご注意戴きご利用下さい。

この書籍の著作権は作成者に属します。

著作権者の許可なく、この書籍の全部又は一部を

いかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

この書籍の開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

この書籍は秘匿性が高いものであるため、

著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部を、

いかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

著作権等違反の行為を行ったとき、

その他不法行為に該当する行為を行ったときは、
関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、
民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。

この書籍に書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。

著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、
情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。

この書籍の作成には万全を期しておりますが、

万一誤り、不正確な情報等がありましても、
著者・パートナー等の業務提携者は、

一切の責任を負わないことをご了承願います。

このレポートを利用することにより生じたいかなる結果につきましても、

著者・パートナー等の業務提携者は、
一切の責任を負わないことをご了承願います。